

【補足】記号について

N……ナレーション 岡本綾香

M……その人物のモノローグ（心の声）

セリフの中にある括弧書き……心情や状況についての補足

SE……効果音

登場人物と設定

● サトミ 桜谷理子 小3女。自分から前に出るタイプではなく、やや気が弱い。これまではひとりで遊ぶのが好きだったが、最近になって皆とオンラインゲームで遊ぶようになり、クラスにも居場所がある感覚になってきている。

● ヤマト 大谷祐喜 小3男。無邪気でよく喋るキャラ。浮いている訳ではないが、時たま周りが見えず、自己中心的だと思われるかもしれない。ゲームはそれほどうまくないが、楽しむあまり仕切りたがる。

● ケイ 佐久間悠吏 小3男。クラスの中ではそれほど目立った存在ではない。その分、心を許せる小さなグループの中では、仕切る側になりたいという思いがあらわれることもある。ヤマトのノリが気になっている。

● モモカ 岡本綾香 小3女。4人の中では、特に何か考えがあったり、こだわりがあったりするタイプではない。

1コマ目 放課後、オンラインゲームで遊ぶ約束をする4人。

N

小学生のサトミ（左端）は、ゲームが大好き！ ふだんはちょっと大人しい性格ですが、最近、同じゲームをもつ

ているケイ、モモカ、ヤマトといっしょにオンラインで遊ぶようになり、とても楽しそうです。

ヤマト
おーい、みんな、今日も帰ったらゲームやろうぜー！
すぐに集合なー！ おくれんなよー！

サトミ、ケイ、モモカ
オツケー！

もちろん！

うん、うふふ！

N
4人は、今日も、オンラインゲームで遊ぶ約束をしています。ところが……。

2コマ目 熱中するあまりあれこれ指示を出すヤマトに戸惑う。

SE
(ゲーム音)

ヤマト
おーい、モモカ、こっちこっち。あー、そっちじゃない
つてば！ こっち来てー！ (ヤマトは純粋に楽しく盛り上がり

喋っている、皆を配下に置きたいという意図はない)

モモカ
えっ、あ、う、うん…… (ゲームは楽しく、その空気は壊したくないのだが、ヤマトの仕切りにはやや戸惑っている)。

ヤマト
ケイ！ ケイは、そこにいて！ おれが先に行く
から！ ちょっと待ってて！

ケイ
え……あ……ああ……。

ヤマト
サトミ、早く、早く！ 早く動いて、こっち！ おー、
アイテム、ゲットー！ イエーイ！ おれ最高ー！

M
サトミ

ヤマト……楽しそうね……。

今日もヤマトがひとりで、もり上がってる……。

よっぽどゲームが楽しいのね……。

3コマ目 ヤマト以外の3人で遊ぼうと提案がある。

N

次の日の、朝。

ケイ

ねえー、最近さー、ヤマトのノリ、なんかヤじゃない？

ああしろ、こうしろって、指示ばっか出して……。そんなにうまいわけじゃないのに……。

モモカ

たしかにー。私もちよっと思ってたー。

ケイ

……あ、そうだ。今日はさ、ヤマトぬきで、三人でゲームしようよ。いいでしょ、たまにはさ。

モモカ

そうね！ たまには、いいんじゃない？ ね、サトミも

いいでしょ？ もっと自由にやりたいよね？（モモカはそ

れほど深く考えている訳ではない）

サトミ

えっ……あ、あの……。

M
サトミ

それって……だいじょうぶなのかな……。たしかに、ヤマトがいるとあんまり自由にできないけど……。 （戸惑い、

肯定も否定も返事ができないまま）

4コマ目 その場に居合わせるヤマト。返事に窮する3人。

ヤマト

おっ、みんなー。こんなとこにいたのかよー。おっはよ

ー。今日も帰ったら、ゲーム、や・ろ・う・ぜー！

ケイ あ……ヤ、ヤマト。お、おはよう。いやあ、実はおれ、

今日ちよつと用事があつてさ……。家の……。(とつさに嘘をついてしまう)

モモカ あ……あたしも！ なんだよね……。ご、ごめん。サト

ミも……。なんだよね？ ね？

サトミ えっ。あ……。う、うん……。(気の弱いサトミはついこのように返事してしまう)

ヤマト えー、なんだよー。

まあ、家の用事なら、仕方ないかー。

ケイ あ、う、うん……。悪いな……。

ケイ・モモカ あは、あはは……。

Mサトミ あ……。な、なんか、四人でやらないことになっちゃった

……。 (これで「いいのかな」と思いつつも、性格上、何かを主張することはできない。)

5コマ目 サトミはヤマトが気になるが、ゲームは楽しい。

N その日、サトミたちは、三人だけでオンラインゲームで

遊びました。

ケイ・モモカ あははは！ (ガヤ…ゲームをしながらの、楽しげなつぶやき)

Mサトミ ヤマト、大丈夫かなあ……。でも、ケイとモモカ、楽しそう……。私も……。楽しいけど……。いつもより自由にやれて……。 (ヤマトが気になりつつも、ゲームは楽しく、そのことを意識しないようにしている。)

S E (ゲーム音)

6コマ目 ひとりで遊ぼうと、ゲームを起動するヤマト。

N
そのころ。

ヤマトは一人でゲームをしようと、ゲーム機の電源を入れました。すると……。

ヤマト
え……。サトミ、ケイ、モモカ……。三人とも、オンラインになってる。みんな、用事あるって言ってたのに……。なんで？ これって、どういうこと……。？ え、もしかして……。おれだけ……。……。 (自分だけがハブられていることに気づくも、確証がないため、信じたくない)

7コマ目 次の日。互いのことが分からず、気まずい4人。

N
次の日の朝。ヤマトと三人が、ばったり出会いました。

ヤマト
あ、みんな……。お、おはよー……。きよ、今日はさ、ゲームできる……。？ (不安がありつつも、性格上、自分から話しかけてみる)

N
いつもとはちよつとちがうヤマトの様子に、三人は顔を見合わせます。ケイとモモカは、すぐに返事ができません。

モモカ
あ、えつと……。サトミ、ど、どうかな？ (自分はどう答えたらいいかわからない。気まずい。気の弱いサトミに話をふる)

M
サトミ
えっ、わたし？ ヤマト……。何か気づいている？ 私、なんて答えたらいいの？ っていうか、私たち、これか

らどうしたらいいの？（自分が何か答えなくては、しかし何と答え
てもよい回答にはならない、と自分を追い詰めるような思いが生じている）

終